

取扱注意 *

記	事
在 京	8
2 . 1 2	

国際理論物理学会議組織委員会 在京委員会（第8回）会合記事

日 時 : 昭和28年2月12日(木) 午後5時 ~ 8時30分

場 所 : 日本学術会議会員控室

出席者 : 藤岡, 小谷, 武藤, 佐藤, 谷, 平田, 本田各委員
(事務局 竹下, 吉田, 肥後)

- 議 題 :
1. 寄付に関する報告及び協議
 2. 国際会議の内容について
 3. 京師委員会との連絡
 4. 物理学会主催講演会
 5. 外部との往復通信に関する報告及び協議
 6. 組織委員会委員追加
 7. 組織委員会(全体会議)次回開催期日

* この資料には寄付募集, 新聞社との交渉その他, 早期に委員外に広く知れると非常に不都合な事項が含まれておりますから, この記事の内容について外部への御発表は, その時期等について十分慎重にお願いします。

記 事
在 京 8

1. 寄付に関する報告及び協議

藤岡委員長から大要次の通り報告。

流末政三氏とその後会ったが、寄付募金は未だ具体的に進行していない。見送の点については、当方で取り進めなければならない。文部省に行って申請の手続きを調べて来た。但し岡野学術課長は余り系統的な見通しを持っていない。

一万田日銀総裁は、龜山会長・朝永委員が出席した会合で寄付に關して援助を約束しているので（記事 1頁，項目1参照），最近の機会に龜山会長・朝永委員が藤岡委員長を紹介する形式で、挨拶がたが具体的な相談に越くことを決定。

なお、募金の体制については、別に法人のようなものを設ける必要も考えられるが、学術会議の名義で募金して、組織委員長名の受領証を発行する便法もあるかも知れないことが話題に上った。

又、藤岡委員長から次の報告があった。
「毎日新聞社からは2月10日に寄付金の一部として30万円受け取り、事務局で保管している。

又、読売新聞社からの寄付額については、100万円の中からRabi夫人の往復旅費等を購って、もし不足額を生じた場合は、20～30万円程度ならば補足する旨約束を受けた。（記事 1頁，項目2参照）

2. 国際会議の内容について

(a) 望性シンポジウム。（記事 6頁，項目5参照）

谷委員から意見の提出があり、日光会場を正式の行事にするか、非公式の有志会合にするか、改めて審議されたが、結局「このシンポジウムは非公式とするが、開催する旨はプログラムの最後に備考として加え、これに参加が望まれる来日科学者にはそれぞれ特におの旨要請する。日本人参加者に対しては文部省の旅費を本会議の場

合と同様に割り当ててもらう。」ことを決定。なお、Mottから小谷委員あての手紙で、同氏の都合としては10月1日までに帰英しなければならないが、9月は早くから本国を出発してもよさそうなのが明らかになったので、日光の望性シンポジウムは日光見物と切離してその前に済ませることが考えられ、その練で改めてMottの都合を照会することに決定。又、同氏の仙台への講演旅行も同様本会議開催前に組むことにする。これに関連して、Seitzももし都合がつけば、Mottと同一行動を取ってもらうよう連絡して見ることが決定された。

(i) 大阪における行幸

藤岡委員長・小谷委員・竹下学術部長の出張で阪大等と連絡の結果に基づき、大阪の日程として次の案が提示された。

24日。朝、自動車で京都から大阪へ。到着後、午前中は阪大見学及小グループに分れての話し合い。
午後は随意にホテルで休養・見物・又一部の人のによる公開講演会を開く。（朝日新聞主催のもの）
夜、レセプション。

25日。大部分の人はこの朝それぞれ地方旅行に出発又は帰京。Mott, Bozorth, Seitzの3名により会社・大学・学会関係者を対象とする講演会。

3. 京都委員会との連絡。

藤岡委員長・小谷委員・竹下学術部長が出張して、同委員会と連絡した結果の報告があった。

京都側の準備体制としては、「京都委員会」の名称を、長谷川万吉委員長のもとに総務・財務・接待・出版等の各部とその他の部を下部組織とする委員会が設置された。委員会独自でローカルな募金の計画もある。又講演会謝金その他の経費に当てるため、文部省予算の中か

記	事
在	京
8	

ら60万円の割当を交渉中である。

本会議の日程について協議されたことは大要次の通り。

(a) 京大主催の講演会を開くこと。

これには日程に余裕がないので、本会議の時間を午前の部は11時半終了、午後の部、3時閉会として、その間の時間を利用すること。又他の参加者はこの時間に小グループの話し合いに参加する。

(b) レセプション。

18日(到着翌日)晩、京大 学長主催(野村別邸)。

22日(最終日前日)午後、京都府・市主催。

(c) 日本文化紹介の催し。

19日晩、ホテル内で日本人講師による講義。

(d) 会場について。

会場の1つに予定していた工学部講堂は設備に不備な点があるので、他に適当な会場を物色中。

又今後の問題として協議した事項は、

(a) 東京との連絡。

毎月1回東京から連絡に趣く。

(b) 京都府・市・商工会議所等との連絡は京都委員会に一任。

(c) 会場の受付等のための語学に堪能な人を若干揃えること。

(d) 会場の整備(幻灯、暗幕等)。

(e) 京都側で上京の序手があるときは、なるべく木曜日にかへるような出張日程にし、在京委員会に参加すること。東京からも毎週通知を出す。

4. 物理学会主催講演会。

平田委員から物理学会の意向を大要次の通り報告。

「MottとSlaterの両名に依頼したい。時期は組織委員会に一任する。Mottの都合で本会議開催をずっと前にするならばそれでもよい。

次号の会誌に両名に対し交渉中と発表する。追って日程等が確定したら次の機会に発表する。

講演者に対する謝礼としては物理学会の負担で1万円ずつ位の記念品を贈る用意はある。」

以上に対し、「物理学会は物性関係の人達だけの講演会を催したのでは片手落ちになりはしないか」という意見も出たが、Bohr, Heisenberg, Oppenheimer 等兼粒子関係は新聞社で手厚く遇することになっているから、物理学会としてはむしろ、取り残されたMott, Slaterを送んで均衡を取ったものであるとの見解が認められた。

又謝礼の方法としては、朝日で5万円ずつ出すことを申出ているから、これを以てMottの本会議前滞在費(前出2の(a)項参照)を負担する案が支持された。

5. 外部との往復通信に関する報告及び協議。

外信 5 を配布。

追加

(a) Kelly から参加推せん。(25付 Ch.64)

米国防軍研究本部(ONR)のChief Scientist and Deputy Chief, Dr. Emanuel R. Piore. ——「同氏の役所は日本から研究のため渡米する多くの日本科学者の渡航費及び研究費について世話している」、同氏は会議参加者としても寄与することあるべき旨書き添えてある。

Pioreについては、滞日費用日本側負担で招請することに決定。

(b) Bohr, Heisenberg, Bhabha, Oppenheimer, Perrin

へ朝日新聞社主催講演会について連絡(2.12付 Ch.99)

「朝日新聞社が国際会議に大きな援助をすることになっているが、同社では次のような計画を持っている。

(A) 講演会

① 9月12日(東京), 9月25日(大阪)

② 依頼予定者

Babha, Bohr(大阪のみ), Heisenberg, Oppenheimer, Perrin, 朝永, 湯川の7名

③ 1人 15 ~ 20分

(B) 誌上座談会

9月12日又は13日(東京)

前掲メンバーと同じ。」

特に Bohr への手紙には、予算が少ないので、毎日の他朝日から
も援助を受けなければならない事情を説明しており、Heisenberg
へのものには、Teller から Heisenberg の米国の講演旅行依
頼の返事が来たが、確約はしていないこと、これが駄目になっても、
Heisenberg 夫人の旅費は朝日新聞が負担する旨申出ていること
等に触れている。

(c) その他

Bloch と Van Vleck に対し、再度参加を推める手紙を出すこ
とを了承。

6. 組織委員会委員追加

ユネスコ国内委員会事務総長鈴木九郎氏。同事務局調査課長長井雅
雄氏。

両名共委嘱を決定。

7. 組織委員会(全体会議)次回開催期日

3月5日(木)9時30分から学術会議において開催と決定。